

ボタンエビ養殖技術開発成果発表会を開催しました

1 開催趣旨

水産試験場では、国内初となるヒゴロモエビ（ぶどうえび）、ボタンエビの養殖技術開発に 2021 年度から本格的に取り組み、この度、ボタンエビについて出荷サイズ（体長 10 cm）までの養殖技術開発に成功しました。成果を多くの方に知っていただくため、令和 7 年 8 月 27 日にマスコミ向けの成果発表会を開催しました。

2 開催結果

当日は複数のメディアに参加いただき、担当研究員から天然抱卵エビの採集・運搬・飼養、種苗の育成といった「養殖種苗の生産技術」と、養殖に適した育成環境の探索・特定、半閉鎖循環システムでの長期飼育といった「養殖種苗の育成技術」を中心に発表を行いました。会場では水産試験場で養殖したボタンエビも展示しました。

説明後は会場を移して、ボタンエビ養殖技術開発を実施している施設の見学を行いました。

最後に、技術開発に関わった職員で記念撮影を行いました。

3 今後の取り組み

今後は、2024 年に誕生した養殖ブランド「常陸乃国まさば」に続く本県の新たな養殖ブランドとなることを目指し、令和 8 年度にかけ、保冷コンテナを用いて今回開発した技術の実証試験を行うとともに、調温コスト等の生産コストの削減、飼育作業の自動化・省力化に向けた試験を行います。実証試験後には、希望する県内事業者に対し技術移転を行い、ボタンエビ養殖による地域振興を図ります。

天然に勝るとも劣らない養殖ボタンエビを、一日も早くみなさまにお届けできるよう、引き続き研究に努めてまいります。
(定着性資源部 水谷)



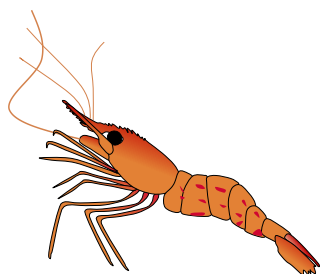
写真 1. 成果発表会の様子



写真 2. 養殖ボタンエビ



写真 3. 技術開発に関わった職員



国内初！

ボタンエビの養殖技術開発に成功！

この度、茨城県水産試験場では、国内初となるボタンエビの養殖技術開発に成功しました。ボタンエビは、その希少性から市場において高い商品価値が見込まれるため、養殖技術確立の暁には、「常陸乃国まさば」に続く、本県の新たな養殖ブランドとなることが期待されます。天然に勝るとも劣らない養殖エビをみなさまにお届けできるよう、引き続き研究に取り組んでまいります。

◆ ボタンエビとは ～高級深海エビの1種～

“甘えび”と同じタラバエビ科の深海性のエビで、体側に美しい赤い模様をもちます。

福島以南～鹿児島までの太平洋側に分布し、本県沖では主に水深200m以深に生息します。

本県では主に9～12月に漁獲されますが、量が少なく、希少価値が高いため、高値で取引されます。身は甘くて食感よく、主に料亭や高級寿司店で利用されます。



◆ 開発技術の概要 ～5年間の取組～

① 養殖種苗の生産技術

- ・天然抱卵エビ採集・運搬方法の確立
- ・天然抱卵エビ養成方法の確立
- ・種苗育成技術の確立

② 養殖技術

- ・種苗の最適育成環境の探索・特定
- ・半閉鎖式循環養殖システム(陸上養殖)の適用



◆ 今後の展望 ～みなさまに届けるために～

開発した技術の実証を行いつつ、生産コスト削減に向けた試験を行います。

将来、本県独自のボタンエビ養殖による地域振興を図るため、県内事業者による事業化を目指します。

